

大阪大学外国語学部ヒンディー語専攻研究室



海外交流

高橋 明*

Osaka University, School of Foreign Studies Hindi Major

Key Words : Reseach Institute for World Languages

ヒンディー語は、歴史的にはインド・ヨーロッパ語族に属し、隣国パキスタンのウルドゥー語、バングラデーシュのベンガル語、さらにイランのペルシア語、そして遠くはヨーロッパの英語やドイツ語などとも親縁関係にある言語です。インドの古典語であるサンスクリット語(梵語)と日本語は、仏教を通じて語彙の面で関わりのあることもよく知られていますが、私たちにとってあたりまえの「アイウエオ」で始まる50音字の配列はサンスクリット語に倣ったもので、現代のヒンディー語もこれに準じています。

インドは長くイギリスの植民地であったこともあり、近代において統一的な政治権力の下にまとめられることがなかったこと、さらにあまりにも複雑かつ多様な言語、文化、民族を内包していることから、国民国家の必要な要件であるいわゆる「国語」を持つことができないでいました。しかし、そのことはヒンディー語の重要性を少しも損なうものではありません。英語がインドにおいてきわめて重要な働きをしていることはよく知られていますが、一昔前はそれがインドの言語状況の特徴の一つとしてよく言及されましたが、今となっては、英語が重要な意味を持つことはインドに限らず、すでに全世界的にあてはまることで、もはやインドだからと云々するこ

とはそれほど意味のあることではなくなっています。

ともあれ、ヒンディー語は母語話者だけで4億人を超えます。また程度を問わなければインドのどこでも通用する事実上の共通語の働きをしています。その意味からも決して「マイナー」な言語とは言えませんし、最近のインド政治において一大潮流となりつつあるヒンドゥー教至上主義と結びついた民族主義的言説の高まりもあり、ヒンディー語は次第に「国語」としての性格を備えつつあるようにも見えます。さらに、BRICsの一員としての近年の目覚ましい経済発展により、インドは南アジアの地域大国から、世界の主要国の一つへと変貌しつつあります。正直なところ、これまでは外国語学部でヒンディー語を学ぶことが専門分野を活かした就職につながることは少なかったのですが、最近は次第に事情が変わってきたことを実感します。昨年も、ある関西の鉄鋼を扱う専門商社からインドでの営業を強化するためにヒンディー語のできる卒業生をぜひ採用したいので紹介してもらいたい、との依頼がありました。幸い適任の学生がすぐに見つかり、めでたく就職となりました。このようなケースは今後ますます増えてくることと思われます。

ヒンディー語専攻の研究室には、ヒンディー語学・文学を専門とする教授1名、中世ヒンディー文学、宗教詩とその韻律研究を専門とする准教授1名、そしてヒンディー言語学を専門とする講師が1名の日本人専任教員3名に加えて、インドの有名なヒンドゥー教の聖地であるアラーハーバード出身のネイティブ教員が1名、合計で4名の専任教員が、所属は全員、世界言語研究センターですが、外国語学部と言語文化研究科言語社会専攻を中心とした教育に当たっています。

ネイティブの教員はたまたまイスラーム教徒ですが、ヒンディー文学を代表する大詩人の身近でその



* Akira TAKAHASHI

1953年12月生
大阪外国語大学大学院西アジア語学専攻
(1983年)
現在・大阪大学世界言語研究センター
センター長、教授 Ph.D ヒンディー語
学・文学
TEL : 072-730-5294
FAX : 072-730-5294
E-mail : takahasi@world-lang.osaka-u.ac.jp

薫陶を受けた影響で、ヒンディー文学を専門分野とするようになった方です。こまかく言えば、この方の母語は重要な東部ヒンディー語方言の一つである Awadhī 語で、この言葉で著された 16 世紀の Tulsī dās 作の *Rāmacarita Mānasa* は北インドのヒンドゥー教徒にとって何よりも大切な聖典となっています。一方で、この同じ言語でほぼ同時期にイスラーム教徒の詩人 Jāyasī によって著された *Padmāvata* は、慣習、言語、文化すべての面でインドの伝統的衣装をまといながら、イスラームの信仰を民衆に説いているなど、実にインドらしい大らかで、かつ底深い文化のあり方を示す傑作です。

言語としては、ヒンディー語は日本人にとってはそれほど学ぶことの難しい言語ではありません。語順も日本語とよく似ていますし、発音の面でも若干の例外を別にすれば習得が困難な音はありません。この点、同じ北インドの言語でも、マハーラーシュトラ州のマラーティー語やカシミール地方のカシミリー語などと比べるとよほど学習が楽な言語です。問題はむしろ語彙にあります。サンスクリット語からの直接の借用語は日常会話にそのまま使われることは少ないものの、少しでも内容のある文章であれば、無節操と言いたくなるほど多く使われます。それに加えて、ヒンディー語成立の歴史的事情から、アラビア語やペルシア語からの借用語がこちらは日常会話の面を中心にあふれています。ここに、最近ではテレビやインターネットを通じて、英語の語彙がなだれ込んできていることは日本語と同じです。その様子は、何もかもを飲み込んで、森羅万象が渾然一体として存在しているかに見えるインドの社会そのものを表しているようにも思えます。

ヒンディー語専攻は、これまでもヒンディー語研究の成果として、文法書、辞書、テキストを多数、刊行してきました。中でも平成 16 年に大修館書店から刊行された『ヒンディー語＝日本語辞典』は現専攻教室の教員全員の恩師である古賀勝郎先生が生涯をかけて完成された世界に誇るべき記念碑的業績です。この辞書の刊行により日本のヒンディー語教育と南アジア研究がどれほど恩恵を被っているか言葉には言い表せないほどです。ちなみに、この辞書の刊行にわずかなりともお手伝いできたことは私の誇りとするところです。

さて、このような実績に加えて、ヒンディー語専

攻では、IT 環境を活用したマルチメディア教材の作成にも力を入れてきました。外国語学部が平成 17 年度から取り組んだ現代 GP プログラム「異文化障壁を乗り越える対話と交渉能力の育成——実践的 e ラーニング言語教育プログラムの展開」では、Web 上で画面に映るネイティブとの間で実際の会話に近いやり取りをすることができる画期的なシステムに基づく教材を作成し、3 年生の専門授業に活用しました。(<http://el.osaka-gaidai.ac.jp/dn/intro-sys/index.html>) また、今年 1 月には科学研究費による研究グループが開発したシステムを利用して、本邦初のヒンディー語電子単語帳を開発しました。(<http://el.osaka-gaidai.ac.jp/dic/>) 大阪大学と統合して外国語学部は総合大学の中の一部局となりました。上記のマルチメディア教材は、旧外大の中の数少ない理系の専任教員の協力なしには到底作成することができませんでした。これからは大阪大学の文系だけではなく、理系の部局の先生方のご協力をいただきつつ、斬新な教材開発に努めたいと考えています。またそうした研究成果を多方面に亘って活用する可能性が今後ますます広がってくることを期待しています。

最後に、この文章のサマリーをヒンディー語（文字は、正式にはデーヴァナーガリー文字と呼びます。）で下にまとめました。一昔前まで、この文字を用いたテキストの印刷はずいぶん手間と費用がかかるものでした。学生のレポートなどは手書きと決まったものでした。その事情をまず変えたのは、TeX の存在でした。Metafont を用いて作成されたデーヴァナーガリーフォントを使用して、日本語、英語、ヒンディー語が混在した文章を自由に作成、印刷することができるようになった時の驚きと感動は忘れません。その内、Windows 上での多言語環境が整備されてきて、文系の人間には敷居の高かった TeX を学ばなくとも、ワープロ感覚でヒンディー語を始めとするインドの言語の文章を作成できるようになりました。今回は、本誌『生産と技術』の読者の多くはおそらく理系の先生方や学生さんでしょうから、文系の私たちがクヌース先生を始めとする理系の研究者の皆さんから受けてきた恩恵に対する感謝の念を込めて、TeX で作成したサマリーをつけることとしました。

हिन्दी भारतीय- यूरोपीय भाषा परिवार की प्रमुख भाषाओं में से एक है, जो भारत के पड़ोसी देश पाकिस्तान की उर्दू ज़बान और बंगला देश की बंगाली भाषा ही नहीं, ईरान की फ़ारसी और दूर-दराज़ यूरोप की अंग्रेज़ी या जर्मन आदि भाषाओं के साथ भी संबंध रखती है। भारत में मातृभाषा के रूप में हिंदी बोलनेवालों की संख्या लगभग चालीस करोड़ से भी अधिक मानी जाती है। इसके अतिरिक्त सारे भारत के कोने-कोने में इस भाषा को समझनेवाले मिल जाएंगे। इस अर्थ में हिंदी एक तरह से भारत की राष्ट्रभाषा जैसी बन गई लगती है। इन दिनों इस प्रवृत्ति को भारत की एक राजनैतिक ज़ोरदार धारा द्वारा भी बल मिल रहा है, जिसकी कुछ लोग कट्टर राष्ट्रवादी कहकर आलोचना करते हैं। ख़ैर, आज भारत का आर्थिक विकास बड़े ज़ोरों पर हो रहा है। भारत सिर्फ़ दक्षिण एशिया का प्रतिनिधित्व ही नहीं करता, बल्कि सारी दुनिया के शक्तिशाली देशों की श्रेणी में पूर्ण अधिकार के साथ शामिल होने वाला है। ओसाका विश्वविद्यालय के विदेशी भाषा संकाय के हिंदी विभाग में इस वक्त तीन जापानी अध्यापक और एक भारतीय अध्यापिका हैं। एक जापानी का विषय है, हिंदी भाषा और साहित्य। दूसरी का विषय मध्य भारतीय धार्मिक साहित्य और उसके मात्रिक छंदों का अध्ययन है। और तीसरी जापानी का विषय है, हिंदी भाषा का भाषावैज्ञानिक अध्ययन और जापानी-हिंदी का तुलनात्मक अध्ययन। भारतीय अध्यापिका मुसलमान होने पर भी एक महान हिंदी कवयित्री महादेवी वर्मा के व्यक्तिगत प्रभाव और प्रेम से प्रेरित होकर हिंदी साहित्य को अपने विषय के लिए चुना है।

ヒンディー語による要約文章

